



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思えます。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合ってもらいたいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思えます。
よろしくお願いいたします。

★資料名

「心を形に」

★今回の道徳の授業のねらい

礼儀は心の様子をあらわすことを知り、心の込もった礼儀を大切にして、時と場に応じ礼儀にかなった生活をしようとする心情を育てる。

★お話のあらすじと内容

あいさつを題材とした教材です。学校を支えてくれている地域の人たちに何かしたいと思ひ、歩道であいさつ運動をします。しかし、行き交う人たちは急いでいるのか挨拶を返してくれません。ある日、通り過ぎようとしたおばあさんに勇気をだして挨拶をすると、手を握って感謝の言葉を言われました。そこから、挨拶は返してもらうためではなく、自分からして気持ちを伝えることが大切だと気づきます。そして、挨拶のほかにもあたたかい心を届ける方法はないかと考えるお話です。

★子どもたちの授業のふりかえり

- ・挨拶をしても返してもらえないことがあった。
- ・もし返してもらえなかったら、また次に会った時、もう一度挨拶をする。
- ・これからもいろんな人に挨拶を自分からしていきたい。

★家庭で話し合ってもらいたいこと

挨拶などの礼儀は社会生活を営む上で欠くことができないものです。この発達段階においては、礼儀のよさや意義について理解していても、恥ずかしさなどもあり、時として心のこもった挨拶や言葉遣いが行為として現れない場面も出てくるのが考えられます。そこで、相手の立場や気持ちを考えて心のこもった接し方ができるようにすることが大切です。ぜひ、お子さんとともに、挨拶を返してもらって嬉しかったことや嫌な思いをしたこと、自分からすることの大切さなどについて話し合ってみてください。